

様式 2

平成 3 1 年度「学びの組織活性化」推進プロジェクト 訪問記録シート

支援チームの訪問回数 (1) 回目

学校名	(出水市) 立 (米ノ津中) 学校	実践校 モデル校	
校長名	関戸 達哉	参加者	24人
学力向上担当者名	市村 恵美子		
日時	令和 (元) 年 (7) 月 (2) 日 (火) (14 : 00) ~ (16 : 45)		
支援チームメンバー	県総合教育センター 石川雅仁研究主事 出水市教育委員会 川野浩明指導主事		
研修に向けた事前の準備等における成果や課題は何ですか。			
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前の準備において、全国学力・学習状況調査の問題を職員が実際に解いたり、分析をしたりすることで、本校の生徒の課題を認識することができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語科のみ学力向上に取り組めばよいという意識が大半だったため、学校全体で組織的に学力向上に取り組むという方向に向かえなかった。 			
研修の成果や課題は何ですか。(参加者の評価や変容等)			
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業における4つのT (Thinking Time, Talking Time, Teaching Time, Training Time) の活用を振り返ることで、各教科において、4つのTの具体的な実践について共通理解することができた。 全職員が、学校全体で組織的に学力向上に取り組み、学校の課題解決を図るという認識をすることができた。 			
今回の研修をこれからどのように生かすことができますか。			
<ul style="list-style-type: none"> 各教科で決めた4つのTの共通実践事項を掲示し、常に念頭において授業に取り組む。 今後2回の国語科における研究授業研修を、全体研修として全員で取り組むことで、学校全体の共通実践事項をしばっていく。 			
次回の訪問までに確認したいことや、これから取り組みたいことは何ですか。			
<ul style="list-style-type: none"> 4つのTの実践をさらに深め、本校の生徒が主体的・対話的で深い学びに近づけるために、国語科の研究授業研修で、対話「話し合い活動の基本」学校全体で取り組める共通実践事項を見出したい。 			

※ 市町村教委，当該教育事務所を通し，県教育庁義務教育課へメールにてお送りください。
(訪問が終わった後，2週間以内に報告をお願いします。)

